

2 別府湾広域都市圏の将来像と都市づくりの方針

(1) 目指す将来像

人がつながる、自然がつながる、活力が満ちる、かがやきの湾岸都市圏づくり

- ・別府湾とこれを取り囲む山並みと一体となった美しく活力のある都市圏づくりを目指します。
- ・多様な都市機能と魅力ある資源のネットワークを構築し、安心して生活できる都市圏を目指します。

(2) 都市づくりの基本的な考え方

① 圏域構造の考え方

圏域構造の概要

- ・別府湾岸付近に位置する国道と背後の山間地を走る高速道路を都市間交流軸とします。
- ・別府湾岸に連続して立地する都市間において、市街地連担軸を形成し都市機能のネットワーク化を図ります。
- ・別府湾岸の海岸線、市街地を取り囲む山地・丘陵地を2つの大きな自然資源の連携軸として位置づけ、自然資源のネットワーク化を図ります。

各都市の役割

- ・大分市は、県内の多様な分野での都市機能の中心的役割を果たします。
- ・別府市は、国際的な観光資源である温泉や高速交通網の結節点にあるという立地特性などを生かし、国際交流まで視野に入れた観光・交流の中心となる都市の形成を図ります。
- ・日出町、杵築市、国東市は、自然環境や歴史・文化資源を活かしつつ、職住近接の多様なライフスタイルの実現を可能にする生活都市の形成を図ります。
- ・由布市湯布院町・挾間町は、生活都市の形成を図りつつ、貴重な自然資源や観光資源を活かし、大分市・別府市やくじゅう・阿蘇方面との観光機能の連携を進めます。

② 土地利用の考え方

- ・県全体の中心的・先導的都市域として、広域的な視点から商業、工業、観光、学術・研究などの多様な都市機能を各都市に適切に配置するとともに、都市機能の周辺に居住を誘導します。
- ・自然環境・田園環境に配慮しつつ、別府湾岸に立地する市街地間の連担の強化を進めます。
- ・別府湾や市街地背後の山地・丘陵地などの自然資源と共生する都市環境づくりを進めます。

- ・別府湾沿いの津波被害や土砂災害が懸念される市街地などについては、居住や都市施設などの都市機能の立地の抑制、避難体制を確立するとともに、施設立地にあたっては災害対策の充実を図るなど、適切な土地利用の転換を図ります。

③ 都市施設の考え方

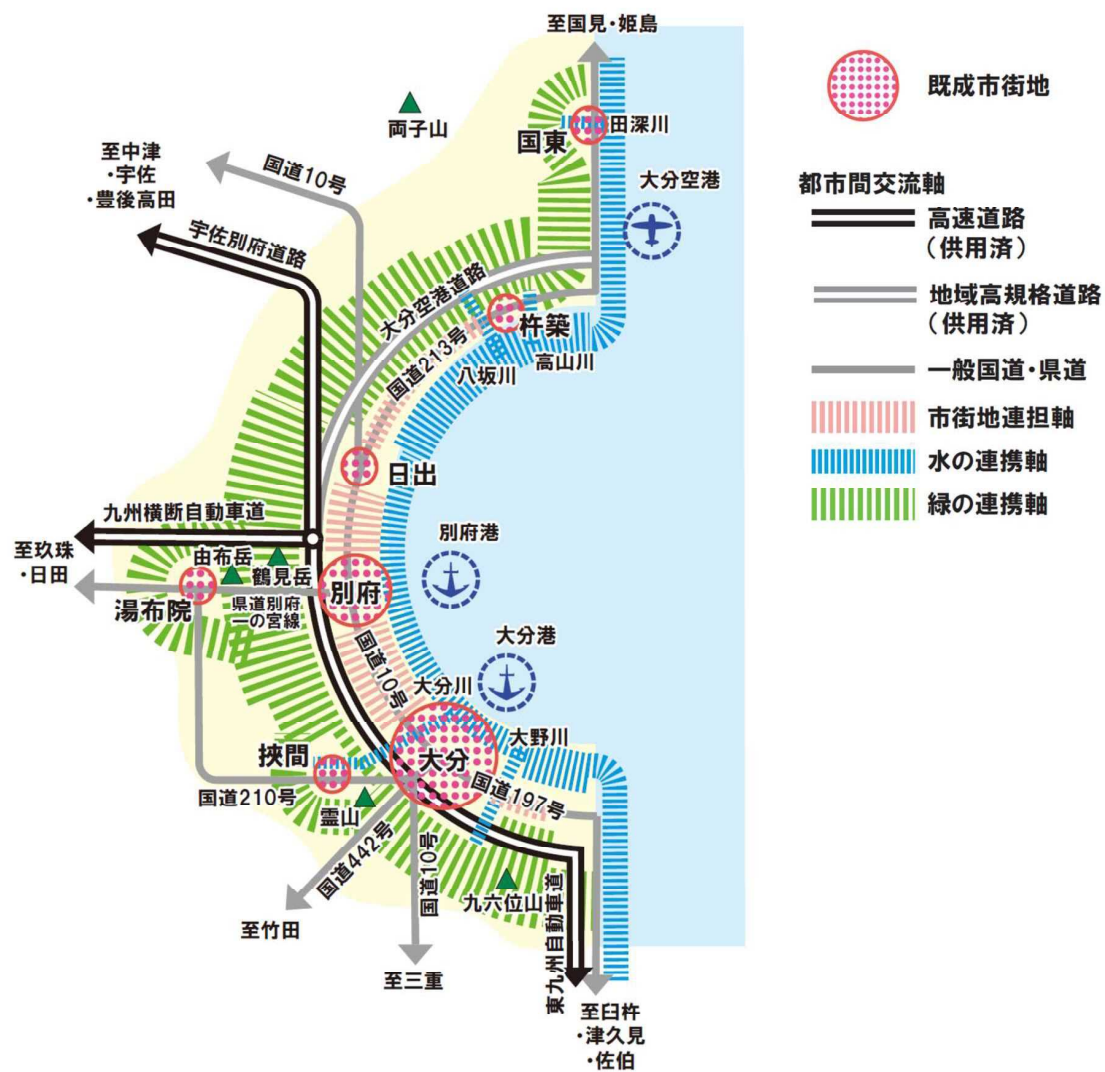
- ・都市間の交流を支える基盤として東九州自動車道及び九州横断自動車道、大分空港道路、国道 10 号、国道 197 号、国道 210 号、国道 213 号を位置づけ、必要な整備を促進します。また、庄の原佐野線など都市間交流軸から延びる支線の整備を促進します。
- ・JR 日豊本線、JR 久大本線、JR 豊肥本線、高速バスや大分空港バス等の公共交通を確保・維持し、誰もが各拠点間にアクセスできる公共交通ネットワークを構築するとともに、情報通信技術を活用した交通需要マネジメント、自動運転や次世代型の自動車のシェアリングシステムなど、新たな交通システムの導入について関係機関と連携して検討を進めます。
- ・現在ある自然・歴史・文化資源の配置を考慮した拠点づくりや都市公園の整備を進め、別府湾岸に広がる水と緑のネットワークづくりを目指します。

④ 自然環境保全の考え方

- ・別府湾岸の海岸線、別府湾に注ぐ大分川・大野川、八坂川、安岐川、田深川などの河川と市街地背後の両子山から鶴見岳、由布岳、霊山や九六位山といった山々とこれら平野部につながる斜面の緑地について、必要な保全を図ります。
- ・別府湾と市街地の背景となる山々に代表される美しい景観を保全・形成するとともに、市街地における公園整備や市街地内農地の保全、グリーンインフラの取組を推進します。

⑤ 都市防災の考え方

- ・本都市圏は、別府湾沿いに市街地が連坦しており、南海トラフ巨大地震をはじめとした津波による被害が懸念されます。また由布市湯布院・挾間など急峻な地形に囲まれた市街地では集中豪雨等による低地の浸水、氾濫や土砂災害が懸念されます。
- ・このような区域では、土砂災害や河川浸水、津波浸水などが想定される区域等の防災情報を横断的に整理したうえで、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせて、多重防御による安全性の確保に努め、強靱な県土づくりを持続的に推進します。



■別府湾広域都市圏の圏域構造図